

中津川市の「4つの財務諸表」を公表します その1

(平成20年度決算)

みなさんに中津川市の財政状況を知っていただくため、民間企業の決算方式で表現した、4つの財務諸表(1.貸借対照表・2.行政コスト計算書・3.純資産変動計算書・4.資金収支計算書)を公表します。

公表する財務諸表は、“市の普通会計財務4表”と、“連結財務4表”があり、連結財務4表は中津川市の普通会計に、水道会計や病院会計などの特別会計と、第三セクターなど関連団体を含めたものとなっております。

今回は、普通会計の財務4表について説明します。次回は連結の財務4表についてお知らせします。

市の普通会計「財務4表」からわかること

知っておきたいポイント

- 1 市民1人当たりの資産は約245万円、負債は約66万円
- 2 社会資本の整備のために現世代が負担した割合・・・82.4%(平均的な値 50~90%)
道路や公園、市庁舎などの社会資本を整備するのに、市税や国の補助金など現世代が負担した比率は82.4%となっており、将来世代負担(借金)を抑えています。
- 3 受益者負担の割合・・・3.6%(平均的な値 2~8%)
行政サービスを受けた方が、直接負担金や使用料として支払ったお金の割合は3.6%となっており、残りは市税などで補います。

財務4表の公表は、今年度から全国的にスタートしたばかりなので、他市との比較による分析は今後進めていきます。

貸借対照表(平成21年3月31日現在)

単位:百万円

資産の部		負債の部	
1. 公共資産		1. 固定負債	
(1) 有形固定資産	184,344	(1) 地方債	42,484
(2) 売却可能資産	175	(2) 退職手当引当金等	7,385
2. 投資等		2. 流動負債	
(1) 投資及び出資金	9,136	(1) 翌年度償還予定地方債	4,761
(2) 貸付金	522	(2) その他	1,236
(3) 基金等	7,206	負債合計	55,866
(4) その他	710		
3. 流動資産		純資産の部	
(1) 現金・預金	5,744		
(うち歳計現金)	(1,769)	純資産合計	152,039
(2) 未収金等	68		
資産合計	207,905	負債及び純資産合計	207,905

貸借対照表

市が住民サービスを提供するために所有している資産(資産の部)と、その資産を将来世代が負担する借金等の額(負債の部)と、現世代が負担済みの市税や補助金などの額(純資産の部)により対照表示した表です。

行政コスト計算書

自平成20年4月1日
至平成21年3月31日

単位:百万円

経常費用	33,469
1. 人にかかるコスト	
(1) 人件費	6,861
(2) 退職手当引当金繰入等	1,265
2. 物にかかるコスト	
(1) 物件費	4,545
(2) 維持補修費	489
(3) 減価償却費	6,806
3. 移転支出的なコスト	
(1) 社会保障給付	5,397
(2) 他会計への支出	6,919
4. その他コスト	
(1) 公債費(利払)等	1,187
経常収益	1,219
使用料・手数料等	1,219
純経常行政コスト (経常費用 - 経常収益)	32,250

純資産変動計算書

自平成20年4月1日
至平成21年3月31日

単位:百万円

期首純資産残高	152,856
純経常行政コスト	32,250
財源調達	
地方税	11,474
地方交付税	12,354
その他	3,012
補助金受入	4,417
臨時損益	113
資産評価替・無償受入	289
期末純資産残高	152,039

資金収支計算書

自平成20年4月1日
至平成21年3月31日

単位:百万円

	金額
1. 経常的収支	10,842
2. 公共資産整備収支	1,675
3. 投資・財務的収支	9,449
当期収支	282
期首資金残高	2,051
期末資金残高	1,769
基礎的財政収支	
収入総額	38,474
支出総額	38,756
地方債発行額	3,854
地方債元利償還額	5,875
財政調整基金等増減	188
基礎的財政収支	1,551

行政コスト計算書

4月1日から3月31日までの1年間の「経常的に計上される行政サービスに係る費用」と「使用料などその行政サービスの直接の対価として得られた収入」を対比させた表です。

純資産変動計算書

貸借対照表中の純資産について、1年間の動きを示した表です。

資金収支計算書

1年間の現金の出入りを「経常的収支」、「公共資産整備収支」及び、「投資・財務的収支」に分けて示した表です。